

1977・11 NO. 129 Vol. 11 NO. 11

●昭和52年9月20日印刷

●昭和52年11月1日発行

●編集・発行者 竹島紀元

●編集スタッフ

塚本雅啓／松尾定行／宮原正和
日比 彰／沖 勝則

●アートディレクト 岡田徹也

●発行所

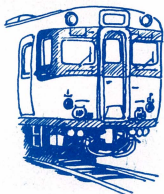
(株)鉄道ジャーナル社

〒102 東京都千代田区飯田橋4-8-6

日産ビル 電話03(264)1891・1892

振替口座 東京 9-82820

●印刷所 凸版印刷株式会社



2号連続で国鉄の急行列車の実態を考察した結果 あまりにも華やかな特急のかけに缺けて 一見地味な存在ではあるが 一日の運転本数が特急を上回る 900本という数字が物語るように 全国的にみれば中短距離旅客輸送の中核的存在であることが明白になった。同時に①‘急行’の定義が明確でなく 特急・快速・各停のいずれにも属さない列車の別称であると思えるほど種々雑多な列車群であること ②実際には短距離ローカル客の救済をかねていることを考えると短距離の急行料金設定が必要なこと ③車両の全面的なレベルアップが望ましいことなど 大きな問題点も浮かび上がってきた。これらの諸点を改善して積極的なイメージアップを図ることにより失地回復は十分可能であると考えられるし また実質的に今の急行がかつての普通列車の使命のかなりの部分を果たしている以上 より大衆に愛される急行に育ててゆく義務が 国鉄にはあるのではないだろうか。

なお車両のレベルアップは 急行の体質改善の主要な手段であるばかりでなく 汎用車という見地から 時代の要請にマッチした近代化車両のモデルとして 意欲的に改善を進める必要があると思う。

定価530円
〒60円

1977-11 もくじ

- 7 レールウェイ・レビュー 青函トンネルの今後
- 8 ニュース・ファイル(国鉄・私鉄・海外鉄道の動き)

●特集‘急行列車’再発見(第2部)

★カラー・グラフ

- 15 ヘッドマークつき急行 健在!

★特別企画

- 18 急行列車^{シグ}日本縦断(後編)上野→稚内

日比 彰/竹島紀元
逸見慶子

- 55 国鉄の急行用車両を考える

木村一男/岡田徹也/関口正巳
中村寛一/藤本鉄二

- 65 随想 ‘急行’を考える

本島三良/久保田 博
青木栄一/福田宏之

- 68 技術面からみた急行列車80年のあゆみ

山之内秀一郎

- 76 急行列車の再編成による改善を!

種村直樹

- 81 装本芸術と汽車⑤

佐々木桔梗

●レールウェイ・トピックス

- 89 ML-500が自力走行実験に成功

編集部

- 90 「新幹線」国際会議に出席して

山之内秀一郎

- 115 ワンマン化改造された都電7500形

赤熊 昇

- 92 車両とともに30年⑩

田邊幸夫

- 97 トップ・アングル

- 103 レールファン・ノートから②⑦ グリーン車にひとこと

本島三良

- 116 ヨーロッパの鉄道と列車の旅(40)イギリスの鉄道

山之内秀一郎

- 122 ある先覚者の軌跡をたどる①

伊藤東作

- 124 汽車会社のディーゼル機関車 製番表

高田隆雄

ブルー・トレイン

◆ワイドレンズ(104)◆新刊紹介(105)◆魚眼/ズームレンズ(106)◆真に鉄道を愛することとは…?(107)◆タブレット(108)◆読者論壇(109)◆Q & A/鉄道友の会だより(111)◆車両基地/伝言板(112)◆R J クイズ/鉄道記事ざっくばらん(113)◆次号のお知らせ/こちらジャーナル編集部/乗務員室(114)

表紙写真/東西のヘッドマークつき急行

カメラ・編集部